

スマホで着メロ 簡単に

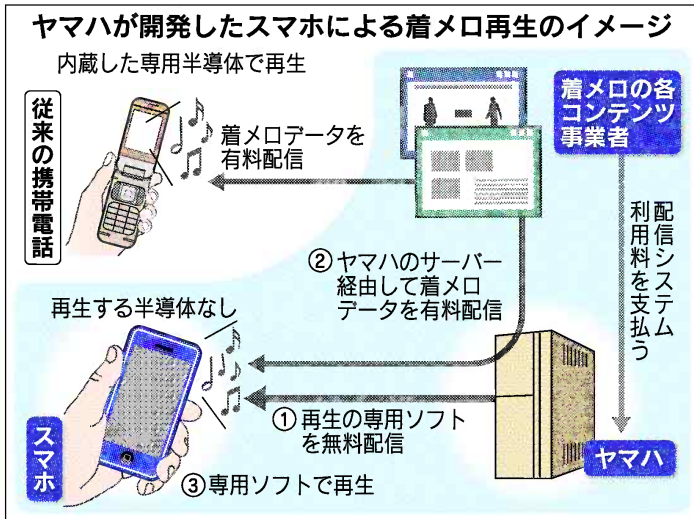
ヤマハ、再生ソフト無料提供

ヤマハグループはスマートフォン（スマホ）高性能携帯電話）で従来の携帯電話で普及した着信メロディーを再生できるソフトを開発した。着メロデータをスマホで簡単に再生する技術がなかったが、ヤマハは音源ノウハウなどを駆使して従来型携帯と同じ音質での再生に成功した。専用ソフトを10月中旬から消費者に無料提供すると同時に、各コンテンツ事業者に着メロ配信システムを供給することで利用可能にする。急速に普及するスマホのコンテンツ市場が一段と活性化しそうだ。

ヤマハグループで携った。ヤマハは独自に録向けコンテンツを手がけ音した様々な音源と音源のヤマハミュージックメの合成技術をソフト化。ディア（東京・豊島、谷口恵治社長）がソフトを「楽譜」データを同開発した。新ソフトは米ソフで音楽に再生できグーグルの基本ソフトるようになった。この種の（OS）「アンドロイド」ソフトは初めてという。を搭載したスマホ向け。消費者は専用ソフトを従来型携帯は内蔵したダウンロードすれば、専用の半導体を使って着マホ側で着メロと「着メロデータ」を再生して「再生できる体制がいたが、スマホは専用の「SMS（簡易メール）」半導体を搭載していない話」「SMS（簡易メール）」「Gメール」のため、着メロが使えな

市場拡大に弾み

コンテンツ会社に 市場拡大に弾み
システム有料供給



「アラーム」（目覚ましなど）といった着信音の個別設定ができる。従来型携帯からスマホに機種変更した場合、過去にダウンロードした着メロデータを引き継いで使える。ヤマハは消費者に着メロを提供するコンテンツ事業者と契約し、各事業者が同社のサーバーを経由してスマホ向け配信シ

システムを支えるようにする。契約料は月額10万円台になるもよう。サイト構築支援のエンターモーション（東京・目黒）と協力して売り込み、初年度に100社の採用を目指す。ヤマハと契約した各コンテンツ事業者は従来型携帯と同様に、スマホ向けに有料で着メロを配信していく予定だ。着メロ配信に当たっては、アーティストや楽曲を保有する音楽会社の著作権保護が課題となる。ヤマハは着メロデータを独自に暗号化した。スマホの契約者情報が入った「SIMカード」の個人識別情報を使い、着メロを購入した契約者が再生する時だけ暗号を解除して着メロを聴けるようにした。

携帯コンテンツ企業の業界団体、モバイル・コンテンツ・フォーラムによると、従来型携帯向けの国内コンテンツ市場は

2010年度で約6500億円。このうち着信メロディーは約1500億円を占める。弱が「着メロを利用した利用していたが、スマホは3%程度にとどまる。ただスマホ利用者の60%で着メロを聴くには、従来は一部の高性能の音楽再生ソフトで再生するか手段がなかった。

システム会社I MJモ「と回答した。スマホで着メロを聴くには、従来は一部の高性能の音楽再生ソフトで再生するか手段がなかった。